

世界共通資格“IC³”への取り組み

千葉県立船橋豊富高等学校教諭 谷川 佳隆

1. はじめに

本校は、千葉県船橋市の北東に位置し、静かで緑豊かな環境の中に立地している。本校は、「自律・友愛・進取」のもと、平成4年度から普通科ではいち早く情報コースを立ち上げ、教科「情報」の始まる10年以上前から情報教育を行っている熱心で実績のある学校である。1年生で行われる「情報A」の授業では、教師5人によるチーム・ティーチングを実施して、ひとりひとりがわかるまで指導している。2年生から情報コースを選択した生徒は、2年次に「情報B」と学校設定科目である「基礎情報実習」と物理Ⅰの授業の一部を、3年次に学校設定科目である「基礎情報実習」と数学Ⅱ・物理Ⅱの授業の一部を、パソコン教室で実施している（図1）。

2. 世界共通資格“IC³”との出会い

本校では今までの情報教育の実績があるため、教科「情報」が始まってから指導計画に困ることなく情報教育が行われた。

主に情報コースの生徒が、日本語ワープロ検定と情報処理技能検定を、本校を試験会場として受

けることができる。年々生徒の資格に対する意欲も向上し、上級に合格する生徒も増加傾向にあった。だが、日本語ワープロ検定と情報処理技能検定の資格は進学等の面接でのアピールにはなるが、推薦用件等には認められていなかった。

MOUS（現Microsoft Office Specialist）の説明にも足を運んでみたが、本校が試験会場にならないことや受験費が高いこともあり、学校として生徒と取り組むことはできなかった。

そのような状況の中、平成17年の5月ごろ、Microsoft Office Specialistを運営している株式会社オデッセイコミュニケーションズから「チャレンジIC³」に参加しないかと誘いの電話を受けた。IC³が2002年から始まった世界共通資格であることを知り、この資格を持てば生徒もこの先さらなる飛躍が望めるのではないかと思った。参加資格は、情報を学んでいる高校生3名と教員と一緒にIC³に挑戦するという事だった。果たして挑戦したい生徒がいるのか不安であったが、3年生の3名が説明したその場で名乗り出て参加することとなった。

3. IC³とは

公式サイトによれば、「IC³（アイシースリー：INTERNET AND COMPUTING CORE CERTIFICATION）は、今まで漠然と判断されてきたコンピュータやインターネットに関する基礎知識とスキルを総合的に証明できる世界共通の資格試験です。2002年2月にアメリカでスタートし、日本では同年11月より開始。現在では世界110か国以上で実施されています。」とある。

IC³の試験は、「コンピューティング ファンダ



図1 情報コースの授業風景

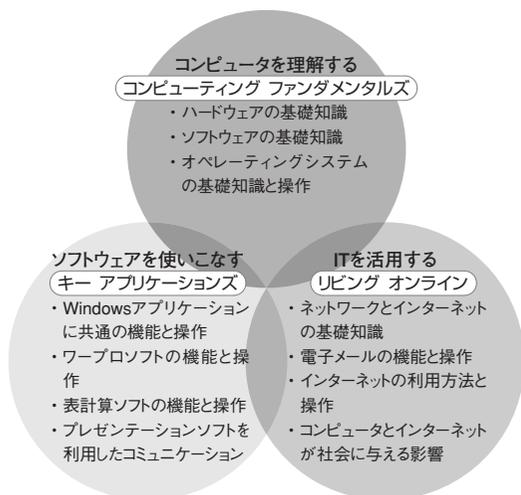


図2 IC³の3科目関係図

メンタルズ」「キー アプリケーションズ」「リビング オンライン」の3科目から成り、認定証は3科目すべてに合格すると発行される(図2)。

IC³の特徴としては、

- ・試験はすべてコンピュータ上で行う
- ・知識だけではなく必要に応じて操作問題も行う
- ・試験後すぐに合否判定が行われるので、受けたその場で結果がわかる
- ・レベルや級などは設定されていない
- ・どの科目からでも受験できる
- ・試験時間は、各科目45分
- ・日にちを変えて1科目ずつ受験しても、3科目すべてを1日で受験してもよい

4. 1年目のIC³の取り組み

IC³を生徒と受験するにあたり、いろいろと解決していかなければならないことがあった。まず、受験会場。本校では実施できないので、受験可能なパソコン教室を紹介してもらうことになる。定期考査や生徒の進路の決定に邪魔にならないように3科目を受験する日を設定する必要がある。オデッセイコミュニケーションズの方や受験会場となるパソコン教室の方と連絡を取り合う日々が始まった。

「コンピューティング ファンダメンタルズ」を夏休み後半に、「キー アプリケーションズ」を

2学期中間考査後に、「リビング オンライン」を2学期期末考査後に受験することにした。一緒に受験する3名と夏休みや放課後に勉強することにしたが、都合の合う日は少なく自学自習に頼るところが多かった。果たしてどのくらい1回で合格できるのか未知数の中、受験が始まった。

1科目目の「コンピューティング ファンダメンタルズ」は、全員無事に高得点で合格した。アーキテクチャを知らない生徒には難しい内容であった。

2科目目の「キー アプリケーションズ」は、残念ながら1名が不合格となった。まさかここで不合格が出るとは思ってもいなかったが、大学の推薦入試を控えていたこともあり、勉強不足であったようである。

3科目目の「リビング オンライン」は無事に全員が合格した。2科目目が不合格だった1名については、年明けに再受験し、無事に合格した。

3名は情報系の大学と専門学校に推薦で進学をしている。もし一般受験をしていたら、IC³受験と大学や専門学校の受験を並行して行うのは時間的にも物理的にも難しかったと思われる。

5. 2年目のIC³の取り組み

2年目を向かえ、果たしてIC³に挑戦する生徒がいるのだろうかと思っていた。IC³の受験には、1科目4,200円×3教科の受験費用に、テキスト代金、それに受験会場までの移動費用など、高校生にとっては高額な費用を必要とした。

そこで、オデッセイコミュニケーションズの方を招き、IC³の説明を兼ねた模擬授業を実施してもらうことにした(図3)。



図3 模擬授業を兼ねたIC³の説明会

そして、3年生から8名の生徒が挑戦したいと受験を申し出てきた。こんなに多くいるとは正直思ってもいなかったのうれしかった。昨年と同様、「コンピューティング ファundamentals」を夏休み後半に、「キー アプリケーションズ」を2学期中間考査後に、「リビング オンライン」を2学期期末考査後に受験することにした。8名とも私が担任をしているクラスの生徒であり、大学または専門学校に推薦入学を希望していたので、両方の指導をしながらのIC³挑戦となった。昨年と違い、問題集が発行されたのは幸いであった。問題集は情報科からの貸し出しの形態とし、金銭的な負担を少しでも抑えるようにした。8名は夏休みや放課後を利用して勉強した。

1科目目の「コンピューティング ファundamentals」は、残念ながら3名の生徒が1回目は不合格であった。1名は2回目も不合格でかなり苦戦したが、何とかその後、合格することができた。

2科目目の「キー アプリケーションズ」は、うれしいことに全員が1回目で合格した。

3科目目の「リビング オンライン」では、残念ながら1回目に不合格者が1名でしまった。2月末の時点で、1名は大学の一般入試があったため「リビング オンライン」は未受験で、7名がIC³の資格を取得できた。昨年と違い、8名と多いので、日程の調整や連絡が大変であった。

6. IC³と教科「情報」

公式サイトによれば、「ITリテラシーの世界共通の指標として開発されたIC³は、コンピュータ・ハードウェアの知識・ソフトウェアの知識・操作、インターネットやネットワーク環境において必要とされる知識・スキル・マナー、コンピュータやインターネットが社会に及ぼす影響などを試験範囲にしています。この広範囲なIT知識やスキルは、ビジネスや教育現場で、生産的にコンピュータを（道具として）利用していくためのガイドライン（指標）という観点から設定されており、教科「情報」における履修項目の9割を網羅

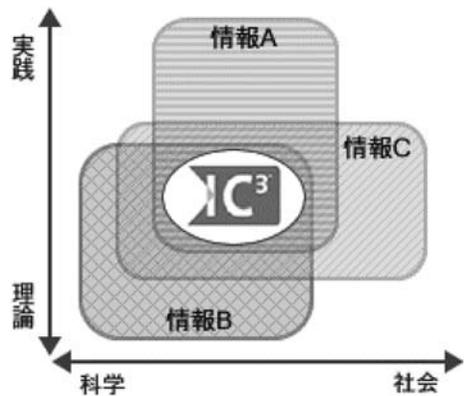


図4 IC³と教科「情報」の相関図

しています。」とある（図4）。

IC³がリテラシーのみをはかる資格ではなく、3科目からなるバランスの取れた資格であること、また、教科「情報」の学習項目にかなり重なることがわかる。

本校には情報コースがあり、情報の授業を多く教えているので、IC³の内容をかなりの範囲教えることができたが、情報を2単位しか教えない多くの高校では、IC³の内容を網羅することは物理的に難しいと思われる。選択科目を設定し、その中で指導するなどの対応が必要と思われる。

7. 最後に

IC³は、日本ではまだ認知度の低い検定であるが、厚生労働省がすすめる「YES-プログラム」（若年者就職基礎能力支援事業）の「資格取得／情報技術関係の資格」において認定対象となっているなど、これからの情報化社会を生きる上で、とてもバランスのよい資格である。

教科「情報」はもちろん資格を取得することを目的としているわけではないが、IC³を教科「情報」にうまく活用することはできると私は思う。

参考資料

IC³公式サイト（オデッセイコミュニケーションズ）

<http://ic3.odyssey-com.co.jp/>